

○・Kさん（障害児教育コース）

彦根市保育園 合格

私は、4月から彦根市職員の保育士として働かせて頂くことになりました。日程としては、7月下旬に一次試験（筆記試験・集団面接）があり、8月初旬に一次の結果発表、8月中旬に二次試験（実技試験・個人面接）があり、9月中旬に結果発表という流れでした。

まず、筆記試験の対策について書かせて頂きたいと思います。筆記試験の対策としては一般教養と専門試験の二つがあるので、私は専門教養の方を100点取るつもりで力を入れました。教員採用試験でも同じなのかもしれませんが、範囲が広い一般教養では自分の苦手な部分や数学の公式だけに要点を絞り、勉強すればするほど点が伸びる専門教養では確実に点を取ろうと思いました。筆記試験の勉強は一人で黙々としたほうが集中できるという友達もいましたが、私は筆記試験の勉強もグループ学習室で友達とするようにしていました。分からない問題はすぐに友達に聞けて解決できるし、勉強の息抜きには友達同士で問題を出し合ったりしていました。一人でしていると周りをもっと勉強しているんじゃないか・・・と不安になったりしますが、友達と一緒にいると勉強が大変なのは私だけではないという安心感やもっと頑張ろうというやる気が得られより勉強に集中できた気がします。専門教養の問題は、何回か同じ問題を解いていくうちに自分が覚えられていない箇所が分かってくるので、解説をよく読みながらしっかり覚えるようにしました。重要単語をノートにまとめ、空き時間に復唱しながら覚えるのも良いと思います。

次に、実技試験についてです。実技試験の対策として大切な事は、"先生を頼る事"と、"とりあえずやってみる"こと、そして"周りの良い所を盗む"ことが挙げられると思います。実技試験は地域差があったり例年の傾向から予想を立てて挑んでもいきなり今年になって変わったりするので、この対策さえしておいたら大丈夫、ということが言えません。しかし、共通していることは創造力と表現力を試されている、ということです。言葉・絵画・リズム運動・造形どの分野から問題が出されても、自身の発想力と創造力、表現力を思いっきり出すことが必要です。

そのためにポイントとなることの一つ目は、"先生を頼る事"です。滋賀大学教育学部には、長年幼児教育に携わって来られた先生が沢山いらっしゃいますし、採用試験の面接官をご経験されている先生もいらっしゃるのので、面接での受け答え方や実技において不安な点を相談させて頂くと、とても親切にたくさんの知識を教えてくださいます。私も、同じ彦根市の採用試験を受験する友達と、彦根市で出題される可能性が高い絵画の対策をお願いした所、お時間を取って下さり、絵具の混色や技法などを丁寧に教えてくださいました。絵は得意だから大丈夫と思っていても、先生から指摘して頂いたり友達に評価してもらうことで改善点や自分の気づかなかった視点でアドバイスをもらえます。とにかく、面接などの受け答えで分からない部分はたずねて幼児教育や保育についてしっかりと把握しておく、そして実技は評価して頂きアドバイスをもらうということは大切です。

二つ目の"とりあえずやってみる"ことというのは、先輩方や先生から過去の出題された試験内容を聞いたり、このような問題が出題される傾向があるという事を知った時、とにかくそれらを自分で片っ端からやってみる事です。とりあえず自分で経験してみることで、自分の練習しておくべき点を把握し、自分のレパートリーを増やしておくことで、どんな問題が出題されても焦らずに対応できます。自分が受験する以外の市で出題された問題ももちろん、それらを自分で少し応用してやってみる等、自分自身の経験値を上げておく事がとても重要です。

最後の"周りの良い所を盗む"という事についてですが、実技の対策は同じように保育園や幼稚園の採用を目指している友達と一緒にすることを絶対にオススメします。例えば、リズム運動の対策（音楽を聞いて自由に踊ったり曲に合う振り付けを考えたりする）では、同じ音楽に乗って踊っていても一人ひとり考える振り付けは当然違いますし、個性が出ます。友達の表現や創作を

見て、印象に残った事やいいなあと感じた部分は、自分に生かしたり応用してみるのも良いと思います。同じ市を受験するのであればライバルになるのかもしれませんが、対策は皆でやって皆で意見を交わし、良い部分は吸収する方がきっと自分の幅が広がります。面接でも、一人で練習するのと友達の前で練習するのでは全然違います。話し方や表情、声のトーンなど、友達の姿を参考にして自分に生かして伸ばす、という事の繰り返しで、自分自身をさらに高めていけると私は思います。

長々と書かせて頂きましたが、採用試験の対策なので、緊張したり不安になったりすることが多いと思います。でも、勉強も実技対策もとにかく楽しんで、仲間と一緒に協力して取り組んで頂きたいと思います。当然ながら私も、先生や友達の助けがなければ採用を頂くことはできなかったと思いますし、つらい採用試験の勉強だからこそ、友達と一緒に励まし合いながらやれば、楽しいものへと変わると思います。上手く書けたかどうか分かりませんが、この就職体験記が少しでも皆さんのお力になれば幸いです。最後まで読んで下さり、ありがとうございました。

T・Hさん（言語教育コース）
東近江市職員 合格

【3回生】

10月 民間企業の就職活動のため、情報収集・自己分析
12月 就職活動
2月 公務員試験の勉強開始

【4回生】

6月 滋賀県庁事務職（1次不合格）
7月 東近江市役所事務職（1次合格）
8月 東近江市役所事務職（2次合格）
9月 東近江市役所事務職（最終合格）

【公務員を目指すまで】

はじめに。2月から勉強を開始しましたが、遅すぎです。最低6か月は勉強期間を設ける必要があると思います。教育実習を経て、自分が目指したい職業は教師ではないと思いはじめ、民間企業の就職活動を始めました。しかし、その間も進路に悩み続け、最終的に公務員一本で目指そうと勉強を開始したのが2月でした。かなり無茶な勉強スケジュールなので、あまり役に立たないかもしれませんが、少しでも参考になれば幸いです。

地域環境や家庭環境を変えることで子育てに関わりたい、というのが主な志望動機です。子どもが密接な関わりを持つ基礎自治体の中でも、東近江市は子育て支援に力を入れておられたので志望しました。

県庁・市役所のみならず絞って試験を受けましたが、公務員には警察事務やその他、多くの職種があります。滑り止めとして他の職種を受けるのも手だと思います。

【試験内容】

県庁・市役所1次はともに筆記試験（5択マーク方式）です。教養科目と専門科目があります。市町村によって、専門科目の試験を課していないところがあるので、勉強する前に、自分が受ける市町村の情報を調べる必要があります。

2次3次の内容は県や市によって変わります。東近江市は2次が集団討論、最終試験が個人面接と作文（小論文）でした。

筆記試験科目、集団討論の議題、個人面接の質問内容、作文のテーマなどは書店で参考本を見れば分かりやすいかと思います。ちなみに、集団討論は時事に即して原発の稼働率を何%にすべきか、作文のテーマは市民の信頼を得られるような公務員像とは、でした。

【勉強方法】

勉強を始めるにあたって。自分に合った勉強方法を模索することが肝心だと思います。私は通信講座を申し込みましたが、結局あまり活用せず、独学のような形で勉強しました。また、勉強のスケジュールも大雑把にしか決めていなかったのも、その日の気分で勉強科目を決めたりしていました。周囲のほとんどの人が教採を受ける中、公務員試験は孤独な長い戦いになります。ストレスも溜まりやすいです。私は日曜日の午後は勉強をしないと決めて、息抜きができるようにしていました。ストレスを溜めない、自分に合った勉強法を見つけることが大切です。

筆記試験に関しては多くの出版社が参考本を出しているので、自分に合った本を見つけてください。創造学習センターの進路相談室にも何冊かあるので、とりあえずそれを活用してみるのもいいかもしれません。毎年、問題のパターンは決まっているので、対策は立てやすいです。ただ

し、範囲がかなり広いので勉強期間はしっかり確保してください。まずは数的推理・判断推理という分野から始めるといいと思います。

集団討論、小論文対策として、『速攻の時事』、『速攻の政策論』（ともに実務教育出版）を買いました。これに加え、新聞を読む・ニュースを見るのを習慣づけて、時事問題に対する自分の意見を日頃から考えるようにしました。また、月刊の公務員試験情報誌も実務教育出版から出るので、それも活用することをお勧めします。この刊行本は筆記試験対策にも重宝しました。

個人面接は、面接対策本やインターネットなどでどのような質問がされるか調べ、自分なりの答えを考えました。志望動機（なぜ教師ではなく公務員か？など）、県や市が行っている政策や活動（現在市が行っている〇〇についてどう思いますか？）のような質問は必ずされると思うので、しっかりとした答えを考え、暗記するほど繰り返し読んで練習した方がいいと思います。本番は緊張で頭が真っ白になるので、暗記してしまうくらいがちょうどいいです。一番のポイントは、笑顔で、ハキハキと。ですが、本番では笑顔もハキハキさも緊張して消えてしまうので、とにかく練習あるのみだと思います。

面接は、事前に提出する面接カードという履歴書のようなものをもとに進められます。これを書くのがなかなか難しく、時間もかかります。ゼミの先生や就職委員の先生に添削していただきました。独学で受験する方は、先生方の力も借りないとしんどいです。

集団討論、作文小論文、面接に共通して言えることですが、受験する県や市の基本情報（人口の増減など）、特色（他の自治体に比べて力を入れているところなど）を頭に入れておく必要があります。国政レベルの政策論ばかりを言っていてはだめです。自治体の現状を把握し、どのように改善すべきかを自治体レベルで考えるようにしてください。

【さいごに】

いろいろと書きましたが、まずは筆記試験に通らないと始まりません。試験勉強は孤独な戦いになると思います。倍率も高いです。ですが、ちゃんと勉強すれば、ちゃんと受かります。しんどいときは休んでいいと思います。誰かに電話したりすればいいと思います。公務員試験を受ける方、頑張ってください。同じ道を歩んだ者として、心から応援します。

S・Eさん（文化情報コース）
福井県警察官 合格

【活動】

<二回生>

公務員セミナーへの参加
市販の問題集購入

<三回生>

各県警の説明会への参加

<四回生>

5月：滋賀県警第一次試験開始、8月：滋賀県警合格発表（最終合格、辞退）
7月：福井県警第一次試験開始、10月：福井県警合格発表（最終合格）

【試験について】

私は滋賀大学に入学する以前より「警察官」という職業だけに的を絞っておりました。その為、教員採用試験だけでなく、警察官以外の公務員への対策は全くしておりません。ここで述べさせていただく対策や傾向には少し偏りが出てしまうと思いますが、あらかじめご了承ください。

まず就職のための活動として一番初めに行ったことは、大学が開催している公務員ガイダンスに出席することでした。公務員ガイダンスは専門学校の講師の方がいらして、試験の対策に関する情報をわざわざあります提供して下さいます。ここで私が最も有益だと感じたのが、試験日のおおまかな日程を知ることができるという点です。一口に公務員と言っても職種や県によって試験の日程は全く違います。警察官の試験ですと、警視庁の一次試験がどの試験よりも早く行われます。また県警の試験も地域によって始まる時期が違いますので、各県警のHPを確認して把握しておかなければなりません。因みに私は滋賀県警と福井県警の二つを受験いたしましたが、滋賀県警が五月、福井県警が七月に一次試験が行われました。

次に行ったのが、生協で売られている警察官試験の対策本に手を付けることでした。これは私の個人的な考えではありますが、一番始めに選ぶ対策本は問題がたくさん載っている、数をこなせるものの方が良いです。まず警察官の試験がどのような形式をとっているのかを知り、数をこなすことでその形式に慣れることが大切だと考えるからです。特に数的処理の問題が多く載っているものがおすすめです。一次試験で行われる教養試験における数的処理の割合が多いからです。ある程度問題に慣れてからは、苦手分野の克服も視野に入れていきましょう。特に物理、化学、生物、世界史、日本史といった科目は選択制の学校も多くあり、知識が少ない場合があります。早い段階で自分がどの教科が弱いのかを認識しておくことはとても重要です。

日常的に行っておくべきことは、ニュースを確認して何が話題になっているかを把握することです。時事に関することは小論文だけでなく面接においても避けては通れない分野です。私も東日本大震災やいじめによる自殺の問題、警察官の不祥事といった、半年～1年前に話題になっていた事件、事故、災害について何度も問われました。重要なのは、ただ情報を取り入れるだけでなくその話題に対する自分の意見というものをしっかり持つことです。小論文や面接では、自分の意見がいかに述べられるかが勝負です。一般論ではなく自分の意見です。起こっている問題に対して自分は何ができるか、どのような貢献をしたいか、といった意見が述べられるようになっておくと強みになります。

また日常的に行っておくべきことに追加したいのが、他者と接する機会を増やすということです。これは面接の場面においてかなり役に立ちます。面接では内容のみならず「話し方」にも注意が向けられています。目線や声の強弱、間の取り方、そういった点を工夫することで自分の意見、主張に重みを加えることができます。この目線や声の強弱、間の取り方といった「話し方」は、他者と接する中で磨かれていくと考えています。また話す練習になるだけでなく、自分以外

の人間がどのような視点で物事を見ているかを知る絶好の機会にもなります。相手に熱意が伝わるような主張の方法を、他者と関わる中で身に付けてほしいと思います。

個人的に苦戦した試験が、集団討論です。自分のペースを上手く作り出す、他の受験者の主張を即座に解釈する、主張の機会に偏りがでないよう調整する、そういった技術が必要になります。集団討論の対策は一人では絶対にできません。しかし滋賀大学で公務員それも警察官を目指しているのはほんの数人です。ですので、集団討論の対策に限っては教員採用試験を控えている人達に交じって行うのが効率的であると思います。

警察官の試験は専門分野がない代わりに（代わり、という表現は適切ではないかもしれませんが）体力試験というものが設けられています。体力試験は一次試験に含まれることもあれば、二次試験に回されることもあります。私が受験した県警では、シャトルラン、握力、上体起こし、立ち幅跳び、反復横とび、といった種目がありました。体力試験で気を付けなければいけないのが、最低基準が設けられているという点です。一種目でもその最低基準を下回ると問答無用に不合格扱いにされてしまいます。問題集とにらめっこするだけでなく日頃から体力維持、向上をしていく必要があります。特にシャトルランは高校以来やっていないという人も多々いらっしゃると思います。県によってこなす回数が決まっていたり、最後の一人になるまで続けたりと方法が違うので、どのような場面に立たされてもベストなパフォーマンスができるよう準備しておいてください。

余談ではありますが、最終試験が終わって数日後に刺青が入っていないかどうかの抜き打ち調査がありました。近年はそういった点も調べられることがあるということのを頭の片隅にでも置いておいていただければな、と思います。

全ての試験において「慣れ」しておくことはとても大切です。何度も経験している、という事実は私達に安心感と落ち着きを与えてくれます。勿論なめてかかっただけではいけません。そんなに甘い世界ではありません。しかし本番で「焦り」が出てしまえば、失敗は避けられません。「焦り」を生じさせないためにも、教養、体力、面接どの場面においても場数を踏んで慣れておくことが何よりの対策ではないかと思います。早め早めの行動をおすすめします。頑張ってくださいね。